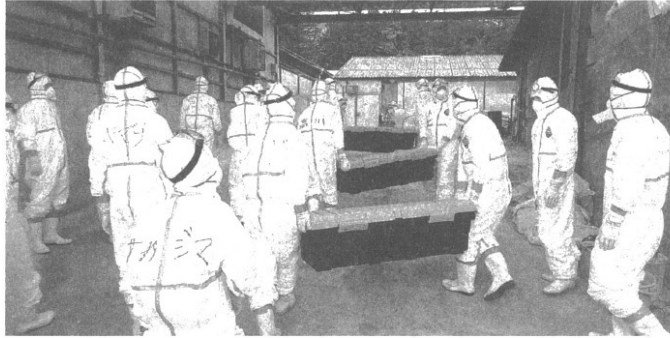


# 前橋の養豚場 殺処分進む

## 豚熱 県、建設業協会 夜通しで



24時間態勢で作業を進める県職員ら（3日、前橋市で） 県提供

前橋市の養豚場で家畜伝染病「CSF（豚熱）豚コレラ」に感染した豚が見つかったことを受け、県はこの養豚場などで飼育している計約1万頭の殺処分を進めている。

県によると、作業は2日午後9時半に始まった。3日午後3時までに県職員や自衛隊員ら延べ1990人が動員され、全体の12・2%にあたる1224頭の殺処分を終えた。今後も24時間態勢で作業し、10日ほどで完了する見通しという。

一方、殺処分された豚を

運んだり、埋める穴を掘ったりする県建設業協会によると、すべての豚を埋めるためには深さ4メートル、幅50センチの穴が4個以上必要となる見込みで、夜通しで作業しても10日以上かかるという。同協会の青柳剛会長は「作業にあたる人たちには苦勞をかけるが、地域を守るために協力してほしい」と話している。

作業の影響で、養豚場に近い前橋市苗ヶ島町の「赤城南面千本桜」では3日から、桜並木のある市道と隣接する「みやぎ千本桜の森

公園」への立ち入りが禁止され、近隣の一部の道路も通行止めになった。周辺では車が渋滞し、警備員から状況を聞いた観光客は驚いた様子だった。

# 豚熱2例目

# ワクチン接種でも感染

# 県、国と原因調査へ

前橋市の養豚場で家畜伝染病「CSF（豚熱＝豚コレラ）」に感染した豚が見つかり、県は2日午後、約1万頭の殺処分を24時間態勢で始めた。県内の養豚場で感染が確認されたのは、昨年9月の高崎市に続く2例目で、県は国の疫学調査チームと連携し、感染経路の特定を進める。

県の発表によると、1日「多数の豚が死んでいる」一体を採取し、国の検査機午前



防護服を着た人が動き回る養豚場周辺（2日午後、前橋市で）

## CSFを巡る主な動き

2018年	9月	岐阜県の養豚場で、国内では26年ぶりの感染確認
19年	9月	埼玉県の養豚場と長野県の県畜産試験場で感染確認。山本知事が豚へのワクチン接種を全国一律で実施することなどを国に要請
	10月	藤岡市と上野村で9月に捕獲された野生イノシシの感染を県内で初確認。県は豚へのワクチン接種と野生イノシシ向けの経口ワクチンの散布開始
20年	1月	県内すべての豚への初回ワクチン接種が完了
	9月	高崎市の養豚場で県内初感染。5887頭を殺処分へ
	11月	野生動物の侵入を防ぐ柵やネットの設置が義務化
	12月	前橋市でも捕獲された野生イノシシの感染確認
21年	2月	桐生市で県内100頭目の野生イノシシの感染確認
	3月	奈良県の養豚場で感染確認。12県に広がる
	4月	前橋市の養豚場で県内2例目の感染確認

※県畜産課などへの取材から

た。生後50〜60日の適切とされる時期にワクチン接種をしていたが、3月中旬以降、150頭ほどが相次いで死んだという。殺処分は、近くの養豚場へ移されるなどした豚も対象となった。

この養豚場では、野生イノシシ向けの防護柵、防鳥ネットを設置していた。しかし、前橋市内では昨年12月から今年3月にかけて、野生イノシシの感染例が5件続いていた。

10市圏内には計106の養豚場があるが、いずれもワクチンが接種されているため、豚の移動や搬出は制限されない。県は改めて、各養豚場に飼養衛生管理基準の徹底などを呼びかける。

県は2日午後から現地に職員を派遣し、**県建設業協**

会などの協力を得て殺処分と埋却準備を開始した。県によると、県内の豚の飼育頭数は約64万頭と全国4位で、一度に1万頭を殺処分するのは、全国的にも例が少ないという。山本知事は緊急の記者会見で「できる限りの対策を講じてきたが、県民に申し訳ない。これ以上感染を広げないように、関係者と連携をしながら全力で取り組む」と語った。

## 対策強化の農家衝撃

県内では昨年9月に高崎市の養豚場でCSFが発生したことを教訓に、感染防止策の強化を図ってきたこともあって、養豚農家には衝撃が広がっている。県養豚協会の岡部康之会長によると、多くの養豚農家は、衛生管理や適切な時期のワクチン接種に細心の注意を払ってきた。「ここまですべて発生するのであれば、正直どうしようもない。毎日が不安の日々だ」と困惑する。

新たに感染が確認された前橋市の養豚場近くに位置する養豚農家の男性は、相次ぐ野生イノシシの感染を懸念しており、「カラスが媒介となることもある。このままでは、東京ドームのような場所で豚を飼うしかない」と話した。



# 前橋の養豚場CSF

## 国内最大規模、1万頭殺処分

県は2日、前橋市内の養豚場で飼育されている豚がCSF（豚熱）に感染したと明らかにした。県は同日夜、この養豚場や、豚の移動があった関連する養豚場の計2カ所所で飼育されている約1万頭の殺処分

### 高崎続き県内2例目

県によると、1日午前10時45分ごろ、養豚場から「死」があった。県家畜衛生研究



会見でモニターを使って説明する山本知事＝2日午後7時20分ごろ、県庁

分を始めた。国内でも最大規模の殺処分数となる。県内でのCSFへの感染は、昨年9月に確認された高崎市内の養豚場に続いて2例目。

関連記事 21面

所が22頭を検査し、このうち20頭が陽性と確認された。国の専門機関でも検査

し、2日午後5時、感染が確定した。この業者は複数の養豚場

で計約2万4千頭を飼育していた。3月初めにはワクチンが接種されていたものの、3月中旬から豚の異変が相次ぎ、1日までに約150頭が死んでいた。

この養豚場の半径10キロ内には106の養豚場がある

業協会は埋却地を掘削するなどの準備を始めた。

昨年9月には高崎市内の



県内内ほとんどの部屋

の明かりが消えていた1日

発生疑いの一報が届いていた。県家畜衛生研究所の検査が午後開始し、深夜まで結果を待つ状況に。県内2例目の感染確認か。

課内には緊迫した空気が漂っていた。

日付をまたいだ2日午前1時、同研究所は感染の疑

いに、緊張感が走った。同市はCSF発生時の防疫マニュアルを作成している。2日は、マニュアルに沿って農政課を中心とする全庁的な緊急支援チームの体制確認などに追われた。

### 緊迫「総力戦で対応」

午後11時すぎ、家畜の防疫対策を担当する畜産課では30人ほどの職員が車座になり、ただならぬ様子で言葉を交わしていた。

同日午前には前橋市内の養豚場からCSF（豚熱）

いがあるとして「疑似患者」に該当すると判断。県の報告を受けた国は精密検査を実施し、同日午後5時にCSF感染だと断定した。

市内外の獣医師や陸上自衛隊第12旅団にも支援を求めた。

一方、1日に県から連絡を受けた同市。約19万頭の豚を飼育する一大産地でCSFの発生が疑われる状況

が、全てワクチンを接種済みのため、移動や出荷の制限はかからない。県や農林水産省は感染経路の解明を急ぐとともに、施設内の消毒や野生動物の侵入防止対策をはじめとした飼養衛生管理基準の順守を改めて周辺農場に呼び掛けている。

同日午前には前橋市内の養豚場からCSF（豚熱）

内最大規模。市町村や近県

を飼育する一大産地でCSFの発生が疑われる状況

対策を振り返る。

前橋市内の養豚場で国内最大規模のCSF（豚熱）感染が判明した。昨年9月には高崎市内の養豚場でCSFが発生したばかり。関係各所の対応とこれまでの

ワクチンは、接種しても全ての豚が十分な抗体を得られるわけではなく、接種した豚の8割程度とされている。

（稲村勇輝）

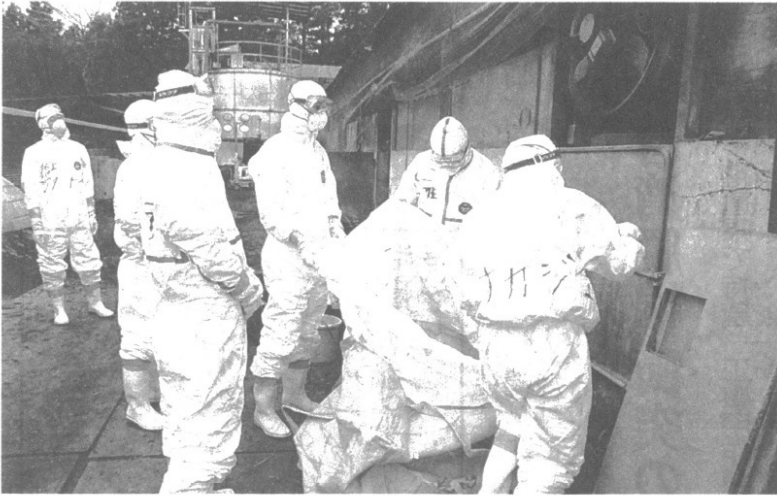


前橋で豚熱

# 1万頭の処分進む

## 防疫措置で交通規制

前橋市の養豚農場の飼育豚に豚熱(CSF)が感染が確認されたことを受け、県は2日夜か



豚熱感染が確認された養豚農場で作業する県職員たち—前橋市で（県提供）

ら、この農場や関連する別の農場で飼育する豚計約1万頭の殺処分を進めている。20日ごろまでに埋却や施設の消毒などを終える予定。防疫措置の実施に伴い、前橋市苗ヶ島町

ら、この農場や関連する別の農場で飼育する豚計約1万頭の殺処分を進めている。20日ごろまでに埋却や施設の消毒などを終える予定。防疫措置の実施に伴い、前橋市苗ヶ島町

地内では、13日午後5時まで全面通行止めの交通規制を行う。

県内では昨年9月に高崎市の農場で豚熱が発生した。これを受け、県などは県内各農場で月2回以上のワクチン接種を行う体制構築や、感染防止対策を進めてきた。県養豚協会の岡部康之会長は「大変ショックだ。ワクチンの効果は8割くらいで、残り2割は感染対策で防げないが、完全には難しいと感じた」と述べた。

県によると、3日午後3時現在、1224頭(12・2%)の殺処分を行い、県職員や自衛隊員、建設業者ら累計190人が作業にあたった。半径10キロ圏内には106農場があるが、ワクチン接種はさ

【道岡美波】